

ASEAN加盟国大使との意見交換会における

藺浦外務副大臣挨拶（仮訳）

（冒頭）

- 外務副大臣の藺浦健太郎です。本日は、日・ASEAN特別首脳会議の開催から3年の節目を捉え、双方の文化面の絆を一層強くするため、大使の皆様に協力をお願いしたく、お集まり頂きました。
- 私は、一昨年の外務大臣政務官、現在の外務副大臣の任期中、世界各地でのべ68か国を訪問しましたが、やはり、ASEANは、世界経済の成長エンジンであると確信しています。また、東アジア首脳会議（EAS）やASEAN地域フォーラム（ARF）といった地域の政治的枠組みでも、中心的な存在です。
- 我が国は、法の支配や民主主義といった価値を共有するASEANが、地域の平和と繁栄のため、統合を深め、強化されることを、全面的に支援していきます。また、TPPやRCEP（アールセップ）を通じた経済統合にも尽力していきます。

（「文化のWA」プロジェクト）

- 我が国とASEANの関係を強化する上で、文化交流と人的交流が重要です。本日、改めて「文化のWA」プロジェクトについて大使各位の理解を深め、ご支援を賜りたいと考えております。
- このプロジェクトは、日・ASEAN特別首脳会議において、安倍総理から発表されました。その背景には、お互いの固有の文化や伝統を受け入れ、知り合うことにより、アジア地域は更に大きな力を発揮できるとの確信がありました。
- 以来、国際交流基金アジアセンターが中心となって、「日本語パートナーズの派遣事業」及び「芸術・文化の双方向交流事業」を二本柱として実施しています。

（日本語パートナーズ）

- 「日本語パートナーズ」は、皆様のお国の高等学校等で日本語授業のアシスタントを務める傍ら、文化活動を通じて地域の人々との交流も深めています。
- ASEANの日本語学習者は100万人を超えますが、現地の学校からは、「パート

ナーズ」の派遣により、「初めて、日本人と話し、日本の文化に触れられた。」との声が寄せられています。

- また、任務を終えた「パートナーズ」は、皆様の国の大ファンとなっています。私は昨年、東京で行われた「パートナーズ」の同窓会に出席しました。「パートナーズ」は今でも派遣された地域の人々と交流を続け、文字通り、「文化のWA」の思想を体現してくれています。
- ここで、その同窓会で流された、各国の生徒から「パートナーズ」へのビデオメッセージをご覧ください。
- 我が国は、現在までに548人の「パートナーズ」を派遣していますが、2020年までに3千人以上を派遣するとの目標を掲げています。

(芸術・文化の双方向交流事業)

- 「芸術・文化の双方向交流事業」では、美術、映像、音楽・ダンス、舞台芸術、スポーツなど、様々な分野でアジアと日本の共同制作を促す事業を行っています。
- 一例として、東南アジアのサッカー振興と青少年交流の拡大を目的として、Jリーグと連携し、のべ500人以上を派遣・交流したほか、各国でのサッカー教室にのべ1000人以上が参加しています。

(結語)

- 国際交流基金に置かれた諮問委員会のASEAN側委員は、このプロジェクトを高く評価し、共同声明を発出しています。
- 大使の皆様には、査証の迅速な発給を含む、事業実施の円滑化に協力を願います。
- 大使各位におかれては、これらの施策の意義を今一度、本国にお伝え頂き、これら事業がより一層理解され、より強固な日・ASEAN関係に繋がるようご助力願います。
- 有り難うございました。